

愛の歌

Song of Love

ソロモンの雅歌より

From Song of Solomon

B. R. ヒックス

愛の歌

ソロモンの雅歌より

B. R. ヒックス



Christ Gospel Churches Int'l., Inc.
P.O. Box 786
Jffersonville, Indiana 47130

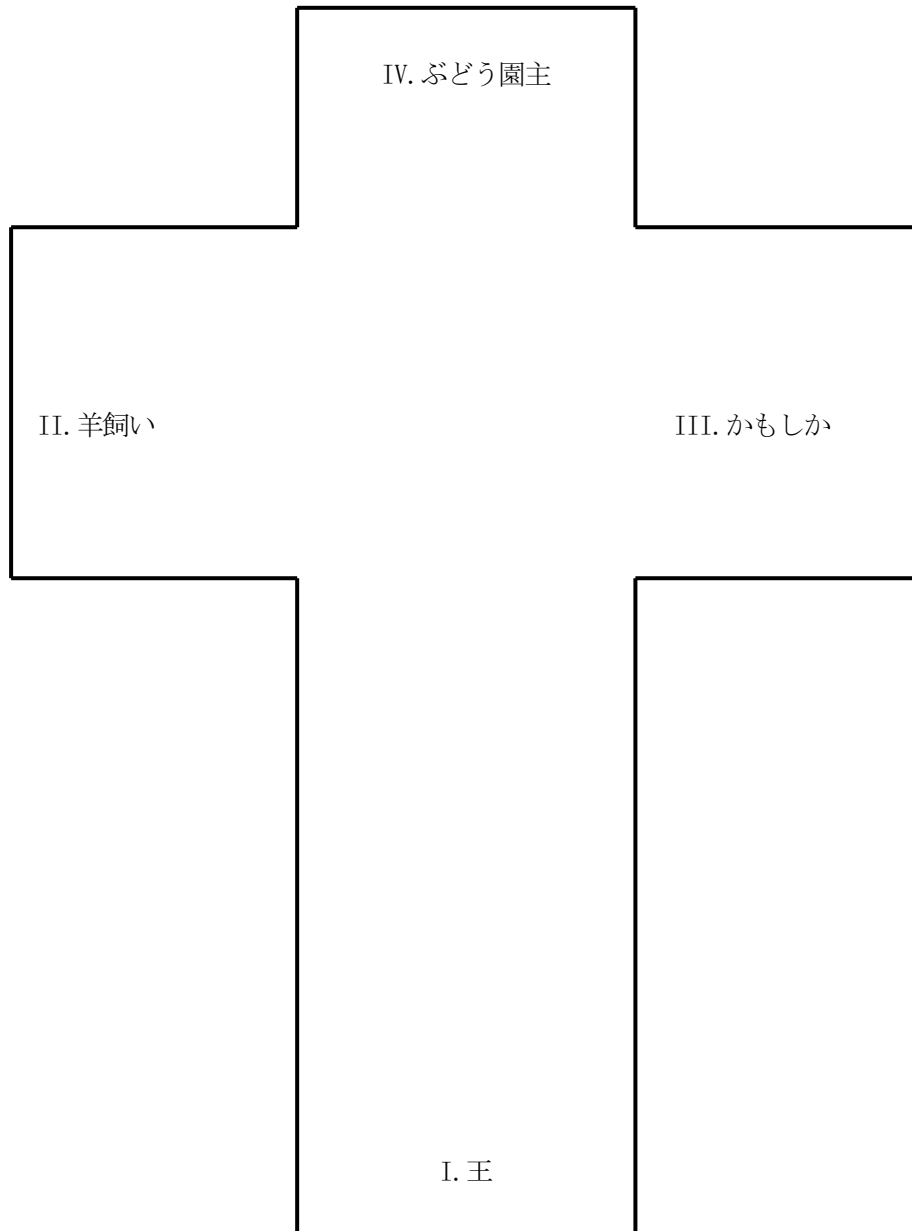
目次

章	ページ
1. 歌の中の歌	9
2. 王としての花婿の紹介	25
3. 羊飼いととしての花婿の紹介	42
4. 王としての花婿と羊飼いととしての花婿の共同の働き	59
5. 羊飼いととしての花婿の働きの続き	72
6. かもしかとしての花婿の紹介	84
7. 花嫁のベテル山での体験	98
8. 羊飼いかもしかによる花嫁の解き明かし	114
9. ぶどう園主としての花婿の紹介	131
10. ぶどう園主としての花婿との結婚	138
11. 配偶者としての花嫁の願い	164
12. ぶどう園主としての花婿の証しと招き	170
13. 配偶者としての花嫁の眠りとぶどう園主としての花婿の忠実さ	180
14. 配偶者としての花嫁の応答と搜索	190
15. 配偶者としての花嫁の服従	198
16. エルサレムの娘たちの問いかけと 配偶者としての花嫁の応答	217
17. ぶどう園主としての花婿による配偶者としての花嫁の解き明かし	221
18. エルサレムの娘たちの問いかけと願いと ぶどう園主としての花婿の応答	231
19. ぶどう園主としての花婿によるエルサレムの娘たちに対する 配偶者としての花嫁の第2回目の解き明かし	243
20. ぶどう園主としての花婿と配偶者としての花嫁の霊的な交わり	265
21. ぶどう園主としての花婿と配偶者としての花嫁との 霊的な交わりの続き	275
22. 花嫁に対する心と腕に封印をつけるようにとの命令	282
23. 夫婦の愛と若い妹	311
24. 配偶者としての花嫁の若い妹への証し	318
付録	324
索引	337

訳 注

- (1) 本文中で太字となっている部分は原著者が大文字または太字を使用している部分である。
- (2) 本文中で斜体字となっている部分は原著者が斜体字を使用している部分である。

ソロモンの雅歌における花婿の4つの描写



前書き

神は、ヨブ記においては、私たちにいかに試練に会うかを啓示しようとし、詩篇においては、いかに祈り、礼拝するかを、箴言においては、いかに生き、行動するかについての知恵を、伝道者の書においては、太陽の下でいかに物事を楽しむかを啓示しています。しかし、雅歌においては、いかにして愛するかを啓示しています。

神の靈感によるみことばのこの部分では、イエス・キリスト（天の花婿）とその霊的な花嫁との関係について書かれています。聖書の他の部分には、偉大な神の教師である聖霊によるこのような招きはありません。

力強い方、主イエス・キリスト、天の花婿について学びに来るなら、彼のすばらしさ、偉大さ、輝きが私たちに粉々にします。

喜びに酔わせるワインを飲みに来るなら、心は秘密の力で興奮し、魂は奮えるような喜びでかきたてられます。

愛と礼拝の涙のうちに恐れをもって、主の足元にひざまずきに来るなら、幻は変えられ、人間の魂の行き場所が変わります。

光り輝く真昼の星の下に座りに来るなら、人間の心の中の暗い裂け目は、主を知りたいという喜びに満ちた望みで満たされます。

静かで穏やかな啓示の流れの中を漂いに来るなら、主の栄光のイメージと身丈が映し出されます。

へりくだりの山と信仰の丘を行ったり来たりしに来なさい。心が主と一致の関係をもつまで。

最も珍しい花を集めに来なさい。私たちの心が知恵と悟りと知識の香りのついた花弁で一杯になったかごのようになるまで。

主の香りをかぎに来なさい。私たちの心が完全に主との聖い一致のうちに埋まるまで。

この本の啓示は神に属しており、栄光は神にあります。私と一緒に来てください。私たちはともに天の花婿、イエス・キリストの心の奥底に、ゆっくりとへりくだりつつ、入っていきましょう。

著者

✠

第1章

歌の中の歌

1 : 1 ソロモンの雅歌

ソロモンの雅歌は歴史書や手紙でなく、また説教、道徳律、戒めでもありません。それは歌であり、知性や理性や良心でなく、感情に訴えかけるものなのです。歌の目的と効果は感情をかきたてたり、感覚に触れたりすることです。歌は、思考よりももっと内側にある心の奥底に働きかけ、そこで楽しみと喜びの泉をわき上がらせます。そしてそれは、全身に感動の波を呼び起こします。この歌は、主の偉大な愛のメロデーと主の大きな恵みの驚くべきハーモニーによって私たちを興奮させます。

神のみことばの中には、多くの歌が書かれていますが、この歌は、歌の中の歌でソロモンによるものと言われています。

ソロモンという言葉は、平和を意味していますが、平和の君としての、イエス・キリストの姿を表しています。平和の君という称号は、特に、キリストが地を平和と義によって治められる千年王国の統治に際して用いられます。

ソロモン王の統治は、知恵と平和によって象徴されます。それゆえに、それは、イエス・キリストの千年王国のひな型となります。聖書はすべての部分が有益であるので、ソロモンの雅歌も、霊的な王、主イエス・キリストを解き明かす上で、非常に重要です。

聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に